

広告

◎ 石狩随想

◎ 石狩随想

89

イベントから地域文化へ

8月9月は夏の終焉を惜しむかのように、そして豊穡の喜びを天に感謝する「まつり」の多い季節だ。子どもたちにとっても故郷石狩を脳裏に刻む、思い出づくりでもあり、郷土愛の芽生えにも結びつく

▼沖縄県恩納村との友好都市交流のため、市民訪問団と共に「うんなまつり」に参加した。次から次へと繰り出される※1エイサー。黄、赤、青の沖縄の衣装や島飾りの伝統的な村人の姿。会場に漂う琉球の歌と※2三線と※3三板の音に、誇りある文化伝承のエネルギ―を受け継いだ若者たち。それをお年寄りが支える姿がそこにあった ▼さけまつりは、サケ漁4千年の中にあつて50年、石狩まるごとフェスタもこれからの発展を期待するイベントである。問われるのは祭りの文化性であり、これは一日にして成らず、われわれ年代が見失いかけているこの価値観を再発見し、未来へ継承していかなければならない。「うんなまつり」から教えられるものはたくさんあった。(市長)

※1お盆の時期に現世に戻ってくる祖先の霊を送迎するために踊られる沖縄の伝統芸能
※2沖縄三味線、蛇皮線(じやびせん)とも呼ばれる
※3沖縄音楽で用いられる三枚の板で構成される小型の打楽器